



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言

歯科病院長 榎 宏太郎

本年も残すところあとわずかとなりました。

光陰矢の如し、と言いますが、ほんとうに一年があつという間に過ぎてしまいます。

今年の歯学部における大きな出来事として、口腔外科学講座の診療科として顎顔面口腔外科とならび口腔腫瘍外科が新設され、昭和大学病院と歯科病院に頭頸部腫瘍センターが発足したことがあげられます。歯学部の講座に医学部の専門医を迎えるという学長の英断により、さらに集学的な体制が構築されました。まさに本学でなければ出来ない、創造的な改革であると思われま



す。現在、領域の別無く、診断技術の高度化や治療の多様化に伴って専門化が益々進んでおります。しかし、単一の専門領域の主治医だけでは、様々な情報を総合して判断することが困難な場合もあります。そのため、質の高い安全な医療を行うには、情報を多職種で交換し合いながら方針を決定する過程が必要です。つまり、センター化やチーム医療を推進する意義は、ひとえに、高次元での『患者中心の医療』の実現にあります。そして、この組織内の連携体制が一般社会に対して、きちんと目に見える形を得られれば、啓蒙にも大きく寄与します。

一人の患者さんに自分自身で出来るだけのことをしたいと願う心は、医療従事者であれば皆同じです。しかし、多くの疾病は境界線を持たないのもまた事実です。さらに、ある専門領域では既に広く認められている治療手技や研究結果が、他の領域ではあまり知られていなかった、という事例もよく耳にします。

他の職種や様々な領域の方々と協力し合いながら疾患に立ち向かうことの出来る歯学部は、そう多くはありません。本学のこの新しい診療体制が学術面においてもブレークスルーとして機能するのではないかと期待しております。もしそうなれば、あの2014年こそが日本の顎顔面頭頸部医療の基礎が作られた年であったと思返す日が来るのではないのでしょうか。

本年は、広い視野に立ったチーム医療が推進され、未来は明るい、と実感できた年でした。

皆様、どうぞ良いお年をお迎え下さい。

## 昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力報告会が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

本学は笹川記念保健協力財団と共同で、平成23年からマダガスカル共和国に医療チームを派遣し、アンチラベ市のクリニックアベマリア病院を拠点に、口唇口蓋裂に苦しむ子どもたちの治療にあたってきました。今年度は事業母体を昭和大学として、11月8日から11月22日まで、医師(形成外科、麻酔科)、看護師、4学部学生のほかに、新たに事務職員2名を加えた総勢15名の医療チームを派遣しました。

医療チームが無事に成果をあげて帰国しましたので、去る12月8日(月)に4号館600号室で報告会を開催しました。事業発起人である作家の曾野綾子さんの出席のもと、形成外科の土佐准教授の司会と概要説明に続き、各学部の学生(歯学部は高松弘貴君)、大学院医学研究科に留学中のマダガスカル出身のマンジャラノ先生、麻酔科の小寺先生、藤が丘病院看護師の内海さん、学事部の三浦さんならびに総務部の五味さんから、それぞれの立場での活動報告がありました。現地は雨季で大雨による停電が手術中にあったようですが、土佐先生を中心とする昭和大学のチーム医療精神で、事故もなくミッションを果たしたとのことです。

昨年度は6年生(保健医療学部は4年生)の学生が参加しましたが、今年は11月の派遣であり、5年生(3年生)の学生が参加しました。未熟な点もあったようですが、学生は多くの経験を得て、今後の医療人としてのモチベーションが高まったようです。お世話いただいた多くの関係者に篤く御礼申し上げます。



(写真は結団式、平成26年10月6日)

## 昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力 隊に参加しました

歯学部5年 高松 弘貴

この度11月8日～11月22日までの2週間、マダガスカル共和国、アヴェ・マリア産院での口唇口蓋裂医療協力に歯学部を代表して参加させて頂きました。現地での活動内容としては、口唇口蓋裂の手術見学、産院内に新設された歯科室見学、市内にある薬局、歯科医院の訪問など貴重な経験ができました。

今回の医療協力に参加して自分の考え方に変化がありました。出発前、私は知識や技術を伝えることが私たちの役割だと思っていましたが、教えるのではなく、多くのことを伝えることが必要なのだと帰国後に考えるようになりました。また、チーム医療の重要性についても改めて考えるようになりました。

今後、手術を受けた子どもたちが成長するにつれて矯正治療などの歯科治療の必要性が出てきます。その時、歯科の重要性をしっかりと伝えることのできる歯科医師になることを目標として努力していきたいと思えます。多くの支援して下さった先生方、事務の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。



## 平成26年度昭和大学武重優秀クラブ賞・優秀 クラブ賞表彰式が開催されました

歯学部学生部長 上條 竜太郎

武重優秀クラブ賞は、武重千冬学長のご逝去に伴い、武重家からの寄附金を原資として設けられた顕彰制度で、本学の名を宣揚せしめ、かつ最も優秀な成績を上げたクラブに贈られます。平成26年11月4日、平成26年度(第14回)昭和大学武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式が、50周年記念館で開催されました。宮崎昭和大学学生部長が開式を宣し、出学長の挨拶、小口理事長の祝辞に続き、武重優秀クラブ賞が馬術部に贈られました。また、学長賞をはじめとする優秀クラブ各賞の表彰も行われ、歯学部関連では、歯学部長賞を歯学部準硬式野球部(写真)、薬学部長賞を歯学部薬学部卓球部が受賞しました。続いて、グリークラブによる校歌斉唱・応援歌、応援指導部による応援エールをもって閉式となりました。



## 避難訓練が実施されました

口腔病理学部門 美島 健二

本年11月17日(月)16時に避難訓練が実施されました。平成23年3月11日に発生した東日本大震災における甚大な被害状況をふまえ、大規模災害を想定した避難訓練です。具体的には、東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の大地震を想定し、激しい余震により建物が倒壊する危険性があるため屋外に避難するという設定で施行されました。まず、全館放送により地震発生の指示があり、初期対応として各自揺れが治まるまでは机等の下に入り、落下物から身を守る対応が指示されました。さらに、火元などの確認やドアを開けるなどの避難経路の確保が行われ、その後、地震の揺れがおさまった事を想定し、1号館(B1～2階・7階)、4・5・10・11・12・14号館は中庭へ、1号館(3～5階)、2・3・15号館は上條講堂前へ、そして16号館は、1号館裏の公園(旗の台一丁目特定児童遊園)へそれぞれ避難しました。

それぞれが避難場所に到着後、各部署の報告者は避難場所で避難者数を確認し、避難前の在室人数と避難者数を本部に報告し訓練が終了しました。本避難訓練は毎年一回施行されていますが、これを機会に初期対応方法や避難経路の再確認がなされ、実際の地震への対策として有意義なものとなりました。



## 昭和学士会が開催されました

学士会学術委員 飯島 毅彦

12月6日(土)昭和大学学士会総会が行われました。これまで、学内の学会は昭和医学会、昭和歯学会という医学部、歯学部がそれぞれ独立した組織を持っていましたが、本年4月1日に両組織が合体し、さらに薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部がこの組織に加わり、昭和大学全体の学内学会として生まれ変わりました。この学士会のあり方、運営方法などそれぞれの学部から代表者が集まり、何度も話し合いが行われてきました。旧医学会、旧歯学会はそれぞれ、シンポジウムや例会、後援セミナーという企画を施行してきましたが、これらの企画はそのまま引き継がれ、全体が一緒に行う学術集会は「総会」という形で今回初めて開催されました。

今年は学術奨励賞の表彰から始まり、メインの講演会場では午後5時まで新任教授の紹介講演が続けられました。ポスター発表は2会場で行われ、セッションはテーマ別に分けられ、各学部混合の形態をとりました。2会場はやや手狭な感じがしましたが、多くの聴衆を集めました。大きな混乱もなく、無事に初めての総会が盛会裡に終了しました。

今後、各学部が例会を開催していきますが、他学部からも発表ができますから是非機会を利用していただきたいと思います。



## D4 チーム医療と口腔医学Ⅱが実施されました

歯学教育学部門 片岡 竜太

平成24年から文科省大学間連携共同教育推進事業で本学と岩手医科大学と北海道医療大学および関連9歯科医師会が連携した5年間の取組として「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」に取り組んでいます。超高齢社会でどのような歯科医師が必要になるかを3連携校で検討し、昨年D3学生に Step1として「全身がわかる歯科医師がなぜ必要か?」「口腔乾燥症」「脳梗塞を発症した患者からチーム医療の仕組みを学ぶ」「口腔診察、検査実習」の内容を学生が主体的に取り組む e-learning とリソース講義と実習という形で、90分授業を10コマで実施しました。

今年D4学生に対して Step2として「チーム医療と口腔医学Ⅱ」を実施しました。Step1の内容を発展させて、VP(バーチャルペーシェント)を活用して、医療面接を行い、診察や検査を行う事によってさらに臨床推論能力を身につける内容となっています。「口腔乾燥を訴える患者に対する医療面接・口腔乾燥症の診断、治療ケア」「高齢者で多くみられる基礎疾患と歯科診療時の留意点」「チーム医療における歯科医師の役割(急性期・回復期)」が主な内容です。

来年 D5になった際に、Step1, 2で学んだ内容が臨床で実際の患者さんの診療に活かせるように、3大学で作成した IT 教材を核に据えて、予習と復習をセットとした授業は能動型学習と反復学習の良い部分をとった充実した授業である事がアンケート結果からも示されています。学生にはさらなる飛躍のため頑張ってもらいたいと思います。



## 第二延山小学校で校外授業を行いました

小児成育歯科学講座 井上美津子

11月7日に歯科理工学部門の先生方と昭和大学に隣接する品川区立第二延山小学校の5年生に校外授業をいたしました。第二延山小学校では5年生が、医学・歯学・薬学・看護学の4つの中から2つ選択しそれぞれの学部の特徴を生かしたプログラムを受けてもらいます。

今回「歯学」では、初めに歯科医師が行ういろいろな治療について勉強してもらった後、実際に人工歯にレジン充填をしてもらいました。実際に参加した小学生の中には「歯医者さんに行ったことはあるけど治療はしたことはありません」「むし歯になったことはないよ」という子どもも多く「むし歯になったら歯をけずって詰める」ことは知っていても、歯科治療自体のイメージが全くない子ども達もみられました。

実際にレジンを窩洞に充填するときには、「詰めるのは簡単だけど、元の歯の形に戻すのが難しい」「なんで光を当てると固まるの?」とみんないろいろな質問をしながら楽しそうに実習に取り組んでくれました。このような機会を通して、子ども達が口腔内の健康に興味を持ってもらえればうれしいです。

## 2014 ヨーロッパ頭蓋顎顔面外科学会 で発表しました

顎顔面口腔外科学部門 栗原 祐史

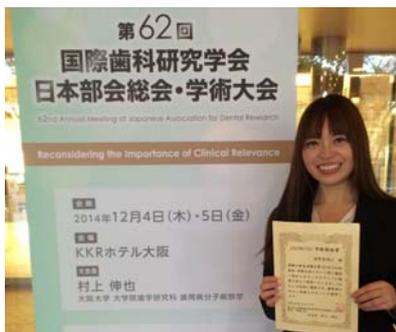
2014年9月23日～26日に、チェコ共和国・プラハにて開催された第22回ヨーロッパ頭蓋顎顔面外科学会(EACMFS2014)で発表して参りました。本学会は2年に1回ヨーロッパにて開催されており、4日間の会期中に、頭頸部癌治療や再建、インプラント治療、再生医療、顎関節疾患、唇顎口蓋裂や顎変形症などの疾患の最新の知見に対して活発な論議が行われておりました。個人的には昨年ベルギーに留学していたこともあり、お世話になった先生や友人と再会することができ、意見交換などで多くの刺激をいただきました。プラハは、チェコ共和国の首都であり、中央ヨーロッパ有数の世界都市で、多くの観光客が訪れる美しい町です。代表的な観光名所としては、プラハ城、カレル橋、旧市街などがあり、寒さが厳しくなる前とあって、多くの観光客が訪れていました。学会の合間には、これらの観光地を散策し、チェコの郷土料理やビールを堪能でき、有意義な時間を過ごすことができました。今回このような機会を下さった多くの先生にこの場をお借りして感謝いたします。今後も国内外の学会での貴重な経験ができるよう研鑽を積みみたいと思います。



## 第62回 IADR 日本部会学術大会で学術奨励賞を受賞しました

大学院4年(歯科補綴学専攻) 星野 真理江

12月4日から5日に大阪にて開催された第62回国際歯科学研究学会日本部会総会・学術大会(JADR)にて発表しました。JADRは、国際歯科学研究学会(IADR)



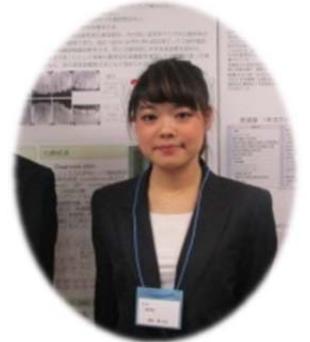
の Division/Section の中で世界第2位の規模を誇り、歯科医学および関連分野の研究促進と口腔保健向上への寄与を目的とする学会です。さまざまな分野の最先端の歯科研究を目の当たりにし、非常に刺激的で有意義な2日間を過ごすことができました。私の演題「Endogenously produced persulfides enhance bone elongation」は、大会前の一次審査を経て、大会期間中に行われた二次審査により JADR/GC 学術奨

励賞を受賞することができました。これまでご指導下さった歯科補綴学講座の馬場一美教授、口腔生化学講座の上條竜太郎教授と宮本洋一准教授、そして多くの先生方と関係者の方々を中心に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第7回日本総合歯科学会若手ポスター 発表で優秀賞を受賞しました

歯学部6年 漆畑 葵

私は今年5月から約1ヶ月半、総合診療歯科においてD6アドバンス選択実習を経験し、同科北村先生のご指導の下、配当された患者さんの POS に基づいた治療計画立案と診療に参加しました。今回、その成果を大阪大学で開催された冒頭の学会にて「6年次アドバンス臨床実習における総合診療計画立案に基づいた能動的な診療参加経験」という演題で発表する機会を頂きました。全国から40題もの若手プレゼンがノミネートされましたが、総合診療歯科の先生方のお力添えで優秀賞を賜ることができました。身に余る評価を頂き、大変恐縮しております。国家試験勉強の合間に土曜日の外来診療に参加し、患者さんの様々な背景を考慮した治療計画を立案するのは大変でしたが、自分で考えた計画に沿って能動的に患者診療を担当する良い機会になったと感じています。発表に際し、お世話になった全ての先生に御礼申し上げます。この経験を勉強の励みに、国家試験まで頑張りたいと思います。



## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

1月17日・18日 センター試験  
1月29日 選抜I期・センター利用I期入試  
1月27日 CBT

## 認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

日本小児歯科学会専門医:

小野陽子 助教(員外) 布施晴香 助教(員外)  
丘 久恵 普通研究生

日本歯周病学会認定医:樋口真理子 兼任講師

日本歯周病学会専門医:紺野有紀子 助教

## 編集後記

口腔生化学講座 吉村健太郎

ご寄稿頂いた先生方に心より感謝申し上げます。ご多忙の折ではございますが、お身体にお気をつけて良き新年をお迎えください。平成27年が皆様にとって幸多い年になりますようお祈り申し上げます。